

京都大学年表

世の中の出来事

明治4
廃藩置県。
文部省設置。
明治5
学制公布。
明治10(1877)
東京開成学校と東京医学校を
合併、東京大学を設置。

明治18(1885)
内閣制度発足
明治19(1886)
帝国大学令公布。
東京大学を帝国大学に改組。

明治22(1889)
大日本帝国憲法発布。

明治27(1894)
清国に宣戦布告(日清戦争)。

1897

明治2
5/1 舍密局、開講式を挙行。 9/22 洋学校開校。
明治3
1月頃 舍密局、大阪化学所と改称。 5/18 大阪化学所を理学所と改称。 10/24 洋学校、理学所を分局として併合し開成所と改称。
明治5
8/3 開成所を第四大学区第一番中学と改称。
明治6(1873)
4/10 第四大学区第一番中学、第三大学区第一番中学と改称。 4/23 第三大学区第一番中学校、開明学校と改称。
明治7(1874)
4/18 開明学校、大阪外国語学校と改称。 12/27 大阪外国語学校、大阪英語学校と改称。
明治11(1878)
7/10 大阪英語学校、舍密局以来最初の普通科卒業生を出す。
明治12(1879)
4/4 大阪英語学校、大阪専門学校と改称。
明治13(1880)
12/16 大阪専門学校廃止。中学科を置き大阪中学校と改称。
明治18(1885)
7/13 大阪中学校、大学分校と改称。
明治19(1886)
4/30 大学分校、高等学校官制公布により第三高等学校と改称。
明治21(1888)
3/31 第三高等学校、奈良・月ヶ瀬・笠置方面へ第一回修学旅行実施。
明治22(1889)
8/1 第三高等学校、大阪から京都への移転を完了し、事務を開始。
明治24(1891)
2月 第一議会で自由党員長谷川泰、帝国大学新設案を陳述。 8月 帝国博物館総長九鬼隆一、「京都大学条例」を起草。
明治25(1892)
2/11 第三高等学校壬辰会発足。 10/15 京都府関西地方教育者大集会開催。府選出衆議院議員石原半右衛門や九鬼が京都の大学新設について陳述。
明治27(1894)
4/8 京都府会議員上野弥一郎、文部省への京都大学設立建議書を府会に提出。 9/11 第三高等学校開校。 10/30 第三高等学校嶺水会創設。

明治30(1897)

6/18 京都帝国大学設置の勅令制定。
6/28 文部省専門学務局長木下広次、京都帝国大学総長に就任。
9/13 最初の入学宣誓式挙行。
9/14 理工科大学授業開始。



明治31(1898)

3月 運動会を結成。
6/14 創立記念祝日規程制定。6月18日を創立記念日とし、第一回創立記念式典挙行。
8/23 第三高等学校寄宿舎が移譲され寄宿舎として使用開始。

明治32(1899)

4/4 第一回陸上運動大会開催。
7/4 法科大学・医科大学を設置。
12/11 附属図書館および医科大学附属医院開設。

明治33(1900)

7/14 第一回卒業証書授与式挙行。

明治36(1903)

3/26 第二医科大学開設の勅令に基づき、福岡医科大学を設置。
7/14 卒業証書授与式に貞愛親王が天皇名代として臨場し、
侍従が優等卒業生に恩賜の銀時計を授与(1918年まで継続)。

明治38(1905)

9/9 法科大学教授ら、東京帝国大学教授戸水寛人の休職処分に対する抗議書を総長
を通して久保田讓文相に提出。

明治39(1906)

6/11 文科大学を設置。

明治40(1907)

10/16 学習院御用掛岡田良平、総長に就任。



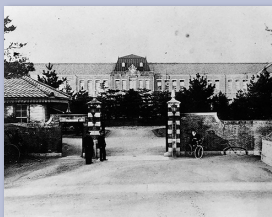
クスノキ植樹以前は松林!?



1909年
京都大学大学文書館 提供
301-00007「京都帝国大学正門、理工科大学本館」



年代不明
京都大学大学文書館 提供
012-00049「理工科大学本館と正門」



1897年
京都大学大学文書館 提供
B-01201「正門、理工科大学本館」

参考：『京大百年』京都大学百年史編集委員会(p.72、p.80～86)
『京都大学百二十五年史 資料編』京都大学百二十五年史編集委員会(第5編：年表 p.4216～4302)
『京都大学ビジュアル・アイデンティティガイドブック』(2018年10月1日 第1版)

1910

明治41(1908)

9/2 元文部大臣菊池大麓、総長に就任。

明治42(1909)

2/6 以文会発足

明治43(1910)

8/8 第1回夏期講習会実施(27日まで)。

明治44(1911)

4/1 福岡医科大学、京大より分離、九州帝国大学創立に伴い九州帝国大学医科大学となる。

明治45(1912)

5/13 理工科大学教授久原躬弦、総長に就任。

大正2(1913)

3/10 以文会・運動会が各分科総代会を開催。両会を合併し新たに学友会創設を決議。

5/9 東北帝国大学総長沢柳政太郎、総長に就任。

7/12 沢柳総長、医・理工・文の計7教授に辞表提出を要求(8月5日、7教授依願免本官)。

9月 3棟からなる新しい寄宿舎竣工。

大正3(1914)

1/24 法科教授・文相・総長ら協議。

教授の任免には教授会の同意が必要との覚書作成。

7/6 理工科大学が工科大学・理科大学に分離。

8/19 東京帝国大学総長山川健次郎、京大総長を兼任。

大正4(1915)

6/15 医科大学教授荒木寅三郎、総長に就任。

大正8(1919)

2/7 法・医・工・文・理の各分科大学、学部と改称。

5/23 初の総長選挙により荒木寅三郎を総長に選出。

5/29 経済学部を設置。

6/9 卒業証書授与式を廃止。

1920 1922

大正11(1922)

6/18 創立25周年記念式挙行。

大正12(1923)

3/23 「在職教授退職二関スル申合」を決定(満60歳の誕生日での退職)。

11/28 農学部を設置。

12月 京大社会科学研究会発足。

大正13(1924)

3/17 学生健康相談所を設置。

5/29 農学部附属農場および農学部附属演習林を設置。

6/18 学友会主催の園遊会初めて開催。

10/23 この日から5日間が運動週間とされ、東大・京大各運動部の対抗競技会が京都で集中的に開催。

大正14(1925)

4/15 学友会新聞部、機関紙として『京都帝国大学新聞』の刊行開始。

12/1 京都府警察部特高課、寄宿舎や学生の私宅・下宿を家宅搜索し三十数人の学生を検束(京都学連事件)。

12/7 京都学連事件で検挙された学生全員、釈放。



1925年
京都大学文学書館 提供
311-00013「正門と本部本館(時計台)」



1923年
京都大学文学書館 提供
370-00002「正門」

初代クスノキ

エンブレムのモチーフとなったクスノキ

京都大学のエンブレムは、百周年時計台記念館前の「クスノキ」をモチーフに作られています。実は現在のクスノキは2代目であり、初代が1934(昭和9)年の室戸台風で倒れた後、翌年の1935(昭和10)年に樹齢約5〜10年の若木が植えられたと推測されています。

スクールカラーの起源(1920年)

現在のスクールカラーである「濃青」は、かねてより京都大学体育会がスクールカラーとして定めていました。これは、1920(大正9)年、京都帝国大学と東京帝国大学による「第1回競漕大会」(於 滋賀県瀬田川)が行われたとき、英国のオックスフォード大学とケンブリッジ大学による対校戦にないダークブルー(濃青)とライトブルー(淡青)を使用し、くじ引きで色を割り当てたことに始まると伝わっています。



1911年
京都大学文学書館 提供
354-00006「正門、理工科大学本館」

大正14(1925)
治政維持法公布。

大正12(1923)
関東大地震。

大正9(1920)
国際連盟発足。

大正7(1918)
大学令公布。

大正3(1914)
第一次世界大戦勃発。

1947

1940

1930

大正15(1926)

1/15 社会科学研究会に關係する京大学生ら14人、出版法違反容疑で検挙。
昭和元年

10/5 化学研究所を設置。

昭和2(1927)

3/30 卒業式を復活し挙行。

昭和3(1928)

4/16 総長から経済学部教授河上肇に対して辞職を勧告。

昭和4(1929)

3/22 理学部教授新城新蔵、総長に就任。

昭和8(1933)

3/22 文学部教授小西重直、総長に就任。

4/22 文部大臣鳩山一郎、小西総長に対して滝川幸辰教授への辞職勧告を要請、応じなければ休職を命ずるよう要求。

5/25 文部省、文官高等分限委員会で滝川教授の休職を決定。翌日発令。

5/26 法学部教官一同、政府の措置を不当とし、総長に辞表を提出、

7/7 理理学部教授松井元興、総長に就任。

7/11 法学部6教授の依願免本官発令(26日、2教授の依願免本官発令)。

昭和12(1937)

6/30 文学部教授浜田耕作、総長に就任。

昭和13(1938)

11/25 文学部教授羽田亨、総長に就任。

昭和14(1939)

4/11 文部次官通達を受けて、軍事教練必修化を告示。

8/2 人文科学研究所を設置。

昭和15(1940)

1/18 学旗学歌制定。2月11日制定式挙行。

昭和16(1941)

3/27 結核研究所を設置。

4/1 学生会を改組し、同学会発足。

11/29 工学研究所を設置。

昭和18(1943)

11/20 出陣学徒の壮行式を農学部グラウンドで挙行。

12/20 『京都帝国大学史』刊行。

昭和19(1944)

5/20 木材研究所を設置。

昭和20(1945)

9/17 医学部教授真下俊一以下11人が原子爆弾災害総合研究調査班として広島で調査中、暴風雨による土砂崩壊で遭難殉職(10月11日大学葬挙行)。

11/1 工学部教授鳥養利三郎、総長に就任。

昭和21(1946)

4/15 17人(文12、理2、法1、経済1、農1)の女子学生が入学試験に合格(京大初の女子入学者)。

9/10 食糧科学研究所を設置。

昭和22(1947)

6/18 創立50周年記念式典を開催。

9/30 京都帝国大学、京都大学と改称。



1943年
京都大学大学文書館 提供
372-00016「出陣学徒壮行式行列行進(本部本館(時計台)前)」



1941年
京都大学大学文書館 提供
A-02306「対英米宣戦布告詔書捧読式」



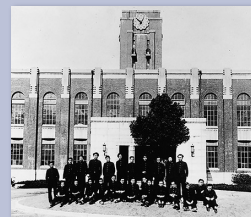
1940年
京都大学大学文書館 提供
372-00004「経済学部卒業式当日の記念撮影、本部本館(時計台)をバックに」



1938年
京都大学大学文書館 提供
A-00301「本部本館(時計台)前のくすの木」



1937年
京都大学大学文書館 提供
H-01905「本部本館(時計台)玄関から見た楠、正門」



1936年
京都大学大学文書館 提供
A-01804「本部本館(時計台)」



1928年
京都大学大学文書館 提供
E-01003「学生の記念写真(本部本館(時計台)前)」

2代目クスノキ

昭和24(1949)
国立学校設置法公布
(新制大学制度発足)。

昭和25(1950)
朝鮮戦争勃発。
国立大学協会結成。

昭和26(1951)
対日平和条約、
日米安全保障条約調印。

昭和31(1956)
国際連合に加盟。

昭和34(1959)
伊勢湾台風。

昭和35(1960)
日米相互協力および
安全保障条約など調印。
閣議、国民所得倍增計画
を決定。

昭和40(1965)
米軍機、北ベトナムへの
爆撃北爆を開始。

1950

昭和23(1948)
3/13 京都大学職員組合結成。

昭和24(1949)

5/25 京都大学消費生活協同組合設立。
5/31 教育学部を含む8学部設置を文部省が認可(新制京都大学発足)。
8/25 学生健康相談所を保健診療所と改称。
9/8 吉田分校開校。
11/3 理学部教授湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞。

昭和25(1950)

3/31 第三高等学校を廃止。
5/1 宇治分校開校(1回生は宇治分校、2回生は吉田分校で受講)。

昭和26(1951)

3/31 防災研究所を設置。
11/1 医学部教授服部峻治郎、総長に就任。
11/12 天皇来学。
学生たち、天皇の車を遠巻きにして平和の歌を高唱(「京大天皇事件」)。

昭和28(1953)

3/26 新制大学院設置(医学研究科は1955年)。
7/28 基礎物理学研究所を設置。
12/11 法学部教授滝川幸辰、総長に就任。

昭和29(1954)

3/23 教養部規程を制定し分校を教養部と改称。

昭和31(1956)

3/24 ウイルス研究所を設置。
4/24 学生懇話室を設置。

昭和32(1957)

12/16 医学部教授平沢興、総長に就任。

1960

昭和35(1960)

3/31 薬学部を設置。
5/26 同学会・大学院学生懇談会主催で全学大会を開催し、
5月20日の新安保条約採決の無効および国会解散要求などを決議。

昭和36(1961)

5/1 宇治分校を廃止、吉田分校に統合。

昭和37(1962)

3/29 経済研究所を設置。

昭和38(1963)

3/31 数理解析研究所を設置。
3/31 原子炉実験所を設置。
12/16 農学部教授奥田東、総長に就任。

昭和40(1965)

3/31 東南アジア研究センターを設置。
10/21 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞。

昭和41(1966)

4/5 保健管理センターを設置。

昭和42(1967)

5/31 霊長類研究所を設置。
5/31 結核研究所、結核胸部疾患研究所と改称。
11/3 創立七十周年記念祝典を挙行。
『京都大学七十年史』刊行。

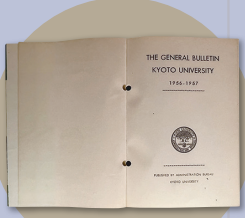
1967



1967年頃
京都大学大学文書館 提供
P-00206「本部本館(時計台)」



1963年
京都大学大学文書館 提供
G-01701「本部本館(時計台)及び正門」



英文一覧(1956~1957年)



1954年
京都大学大学文書館 提供
357-00002「正門、本部本館(時計台)」



OUTLINE OF KYOTO UNIVERSITY(1950年)

エンブレム使用例

エンブレムの原型(1950年頃)

京都大学のエンブレムの原型は、1950(昭和25)年頃、事務局庶務課に在籍していた職員 小川録郎氏により考案され、以来「事務局シール」として事務局および部局における印刷物、レターヘッド等に使用されていたと伝えられています。しかし現物は今の所確認することはできていません。

昭和43(1968)
この年、大学紛争起こる。

1970

昭和44(1969)

- 1/15 総長・学生部長と、無条件増寮・20年長期計画撤回・財政全面公開を掲げる寮生らとの「団交」。
- 1/16 大学側の返答を不満とする寮生、「団交」決裂を宣言し、学生部を封鎖。
- 1/23 封鎖解除派により学生部封鎖解除。
- 3/3/5 入学試験を学外11力所で実施。
- 6/11 大型計算機センターを設置。
- 9/17 全共闘系学生が時計台を封鎖占拠。
- 9/22 機動隊による時計台封鎖解除。
- 12/16 工学部教授前田敏男、総長に就任。



昭和46(1971)

- 3/31 放射性同位元素総合センターを設置。
- 3/31 工学研究所、原子エネルギー研究所と改称。

昭和47(1972)

- 5/1 体育指導センターを設置。

昭和48(1973)

- 12/16 医学部教授岡本道雄、総長に就任。

昭和49(1974)

- 6/4 財京都大学創立七十周年記念後援会設立(88年財京都大学後援会に改称)。



昭和50(1975)

- 4/22 医療技術短期大学部を設置。

昭和51(1976)

- 5/10 ヘリオトロン核融合研究センターを設置。
- 5/10 放射線生物研究センターを設置。

昭和52(1977)

- 4/18 環境保全センターを設置。
- 6/18 評議会、竹本信弘経済学部助手の分限免職処分を可決。
- 7/5 埋蔵文化財研究センターを設置。

昭和53(1978)

- 4/1 情報処理教育センターを設置。

昭和54(1979)

- 10/6・12 全学的な公開講座として京大市民講座開催(以後、毎年秋の土曜日に開催)。
- 11/2 フランス、パリ第七大学との間に学術交流協定締結(京大初の外国の大学との学術交流協定)。
- 12/16 農学部教授沢田敏男、総長に就任。



1977年
京都大学大学文書館 提供
B-02502「吉田地区(航空写真)」

1980

昭和55(1980)

- 4/1 医用高分子研究センターを設置。

昭和56(1981)

- 4/1 超高層電波研究センターを設置。
- 10/19 工学部教授福井謙一、ノーベル化学賞受賞。

昭和60(1985)

- 12/16 工学部教授西島安則、総長に就任。

昭和61(1986)

- 4/5 アフリカ地域研究センターを設置。

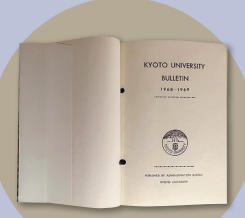


『京都大学』1987年刊
(裏表紙)

昭和48(1973)
第一次石油危機はじまる。

昭和54(1979)
初の国立大学共通
第一次学力試験実施。

昭和60(1985)
国際科学技術博覧会
(つくば科学万博'85)開催。



英文一覧(1968~1969年)



1969年
京都大学大学文書館 提供
020-00054「切られたクスノ木と本部本館(時計台) 大学紛争」



1975年
京都大学大学文書館 提供
I-00801「本部本館(時計台)」

平成元年(1989)
米ソ首脳、マルタ島
で会談、東西冷戦の
集結を確認。

平成2(1990)
初の大学入試
センター試験実施。

平成3(1991)
湾岸戦争勃発。
大学設置基準、
短期大学設置基準、
学位規則など改定
(設置基準の大綱化)。

平成7(1995)
阪神・淡路大震災発生。
科学技術基本法施行。

平成8(1996)
科学技術基本計画策定。

1990

昭和62(1987)

4/14 統合情報通信システム建設本部、大型計算機センターを母体に開設。
KUNIS(Kyoto University Integrated Information Network System)
第1期計画建設事業開始。
10/12 利根川進、ノーベル医学・生理学受賞。

昭和63(1988)

4/8 結核胸部疾患研究所、胸部疾患研究所と改称。
4/8 遺伝子実験施設を設置。
12/1 国際交流センターを設置。

平成元年(1989)

10/2 京都大学春秋講義(秋季講座)開講。

平成2(1990)

4/1 総合情報通信システム建設本部を解散し、京都大学術情報ネットワーク機構
発足。KUNIS第2期計画に着手。
6/8 医用高分子研究センターを発展的に解消し、生体医療工学研究センターを設置。
6/8 留学生センターを設置(これに伴い国際交流センター廃止)。

平成3(1991)

4/12 木材研究所、木質科学研究所と改称。
3/30 大学院人間・環境学研究科を設置。
4/12 生態学研究センターを設置。
12/16 医学部教授井村裕夫、総長に就任。

平成4(1992)

4月 全学共通科目開講。
4月 法学部大学院重点化。
9/30 総合人間学部を設置。

平成5(1993)

3/31 教養部を廃止。
4月 医学部で大学院重点化開始(1995年完成)。
4月 工学部で大学院重点化開始(1996年完成)。

平成6(1994)

4月 理学部で大学院重点化開始(1995年完成)。
6/24 高等教育教授システム開発センターを設置。
6月 『自由の学風を検証するー京都大学自己点検・評価報告書』刊行。

平成7(1995)

4月 農学部で大学院重点化開始(1997年完成)。

平成8(1996)

3/27 大学院エネルギー科学研究科を設置。
4/1 アフリカ地域研究センターを発展的に解消し、人間・環境学研究科アフリカ地域
専攻およびアフリカ地域研究資料センターを設置。
4月 文学部大学院重点化。
4月 経済学部で大学院重点化開始(1997年完成)。
5/11 原子エネルギー研究所、エネルギー理工学研究所に改組。

平成9(1997)

3/31 情報処理教育センター・工学部附属高度情報開発実験施設を廃し、
総合情報メディアセンターを設置。
3/31 総合博物館を設置。
4月 薬学部大学院重点化。
10月 京都大学国際教育プログラム(KUINED)開講。

11/2

創立百周年記念式典を挙行(京都会馆)、記念祝賀会開催(京都市勧業館)。
創立百周年記念展覧会「知的生産の伝統と未来」(10/28、11/24 総合博物館・
附属図書館等)、創立百周年記念音楽会(11/1 京都コンサートホール)、
創立百周年記念特別講演会および記念シンポジウム「知の軌跡と大学の可能性」
(11/3 京都テルサホール)等を開催。

12/16

工学研究科教授長尾真、総長に就任。



初代エンブレムの承認(1990年)

国際交流の進展に伴い、大学としてのエンブレムの必要性が
高まり、工学部建築学科 川崎清教授および京都芸術短期大学
ビジュアルデザイン学科 久谷政樹教授(当時)により意匠に
についての専門的な検討が加えられ、1990(平成2)年11月16日
の評議会において、本学のエンブレムとすることが承されまし
た。



京都大学創立百周年記念映画
『京都大学の百年』
(VHSテープカバー)



1997年
亀田能成 提供



1996年
京都大学大学図書館 提供
901-00484「本部本館とクスノ木」



1995年
京都大学大学図書館 提供
901-00007「本部本館(時計台)(雪・朝)」

2000

平成10(1998)
1/6 附属図書館を始め26部局で、新図書館業務システム・電子図書館システムの運用を開始。
3/27 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科および大学院情報学研究科を設置。
4月 全学共通科目として、各学部・研究所・センターの教員による新入生向け少人数セミナー(ポケットゼミ)導入。

平成11(1999)
3/31 大学院生命科学研究科を設置。
7/9 医学部附属病院、最初に取り出した肝臓を別の患者に移植し、その患者の肝臓をまた別の患者に移植する世界初の生体ドミノ・分割肝移植を実施。
9/28 評議会、新キャンパス構想(短期計画)を了承。桂・御陵坂地区の桂キャンパスに大学院工学研究科および大学院情報学研究科が移転し、学部学生の教育は基本的に吉田キャンパスで実施。
10/1、12/10 総合情報メディアセンター、学内関係機関の協力を得て全学共通科目の「物理学概論」と「宇宙科学」をカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)と遠隔講義で実施。(TIDEプロジェクト)

平成12(2000)
3/31 各学部の教育研究の実施に協力する大学院について、
文学部は文学研究科・情報学研究科、
教育学部は教育学研究科、
法学部は法学研究科、
経済学部は経済学研究科、
理学部は理学研究科・エネルギー科学研究科・情報学研究科・生命科学研究科、
医学部は医学研究科・生命科学研究科、
薬学部は薬学研究科・生命科学研究科、
工学部は工学研究科・エネルギー科学研究科・情報学研究科、
農学部は農学研究科・情報学研究科・生命科学研究科が協力すると規定。
副学長を2名設置。
大学院医学研究科附属高次脳機能総合研究センター設置。
人文科学研究科附属東洋学文献センターを漢字情報研究センターに改組。
経済研究所附属金融工学研究センター設置。
超高層電波研究センターを宙空電波科学研究センターに改組。
学内初の専門職大学院として大学院医学研究科社会健康医学系専攻設置。
入試成績と高校調査書の一部を来春入試から受験生の請求に応じて開示すると発表。
11/1 大学文書館設置。

平成13(2001)
6/1 総合博物館、一般公開開始。
9/29 臨時評議会、次期総長候補者に長尾眞総長を選考。長尾総長の再選決定。
10/10 野依良治名古屋大学教授(京都大学工学部卒業、元工学部助手)がノーベル化学賞受賞。
12/4 評議会、京都大学の基本理念を可決。

平成14(2002)
4/1 財団法人基礎化学研究所からの寄附を受け入れ、
学内措置で福井謙一記念研究センター設置。
4/8 大型計算機センターと総合情報メディアセンターを統合し、
学術情報メディアセンター設置。
理学研究科附属機器分析センター廃止。
再生医科学研究所に幹細胞医学研究センター設置。
ウイルス研究所附属ウイルス感染動物実験施設を廃止・転換し、
感染症モデル研究センター設置。
低温物質科学研究センター設置。
8/8、9 「受験生のための京都大学オープンキャンパス2002」開催(以降、受験生対象のオープンキャンパスを毎年開催)。



2003年
元木環 提供



2001年
元木環 提供



2000年
元木環 提供



1999年
亀田能成 提供



京都大学ホームページ(1998年)



1998年
亀田能成 提供

平成15(2003)

3/31 大学院医学研究科に専門職大学院設置。
4/1 高等教育研究開発推進機構設置。

総合人間学部の実施に協力する大学院を、人間・環境学研究科、情報学研究科、生命科学研究科、地球環境学研究部と規定。
臨海実験所・演習林・亜熱帯植物実験所・水産実験所を統合、再編し
フィールド科学教育研究センター設置。

化学研究所附属元素科学国際研究センター設置。

高等教育教授システム開発センターおよび体育指導センターの廃止・転換により、高等教育研究開発推進センター設置。

基礎化学研究センター設置。

5/17 カフェレストラン「カンフォーラ」がオープン(正門西側)。
12/16 尾池和夫 副学長が第24代総長に就任。



平成16(2004)

国立大学法人化。

平成16(2004)

4/1 国立大学法人京都大学発足。

4/13 第1回京大サロントーク開催(以降、原則毎月1回開催)。

4/19 第1回京都大学未来フォーラム開催。

5/17 講師は学外の各分野で活躍する卒業生(以降、原則毎月1回開催)。

役員会、創立記念日の6月18日を休日決定(2004年度のみ病院業務実施)。

平成17(2005)

「愛・地球博」愛知県で開幕。

3/22 環境安全保健機構、国際イノベーション機構、国際交流推進機構、情報環境機構
および図書館機構設置(4/1施行)。

平成18(2006)

3/16 第1回附置研究所・シンポジウム「京都からの提言：21世紀の日本を
考える」を東京で開催(以降、毎年巡回開催…計10回)。

3/18 医療技術短期大学の最後の卒業式開催。

3/29 専門職大学院の公共政策連携研究部、公共政策連携教育部、経営管理研究部、
経営管理教育部を設置。

4/1 総合薬学科を廃止し薬科学科と薬学科設置。

研究推進部、国際部、企画調査・評価部を設置し、研究・国際部、企画部を廃止。
課長補佐、掛長を廃止し専門員(グループ長)、専門職員を設置。

事務本部にセンター設置。

11/3 京都大学同窓会発足、第1回ホームカミングデイを開催(以降、毎年度開催)。

平成19(2007)

4/1 助教授廃止。准教授、助教新設。

4/25 医療技術短期大学部閉校式を挙行(芝蘭会館)。

7/1 国際イノベーション機構を廃止し、産官学連携本部設置。
産官学連携センター設置。

平成20(2008)

1/22 物質・細胞統合システム拠点内にIPS細胞研究センター(CIRA)設置。

3/27 霊長類研究所附属施設の幸島観察所、屋久島研究林、チンパンジー・サンクチュ
アリ・宇土の3施設が野生動物研究センターへ移行。

10/1 松本紘理事・副学長が第25代総長に就任。

10/7 益川敏英名誉教授がノーベル物理学賞受賞。

11/6 役員会、「京都大学重点事業アクションプラン2006～2009(第3版)」決議。



平成21(2009)

1/19 附属図書館1階に24時間利用可能な自学自習スペース「学習室24」開設。

3/3 京都大学優秀女性研究者賞(たちばな賞)の第1回授賞式実施(以降、毎年度
実施)。

3月 身体障害学生相談室、『京都大学フリーアクセスマップ』(バリアフリーマップ)
作成。

9/8 次世代研究者育成センターを設置し、白眉プロジェクト開始。

10/20 京都大学の名義並びにエンブレム、ロゴタイプ及びスクールカラーに関する
規程(総長裁定)。

2代目エンブレム・スクールカラーの制定(2009年)

京都大学広報委員会の要請により、学術情報メディアセン
ター 奥村昭夫客員教授・元木環助教・コンテンツ作成室
(当時)、全学共通科目「グラフィックデザイン」受講学生
有志によって、当時使用されていたエンブレムのカラーと
形状の変更がなされ、2009(平成21)年10月20日の部局
長会議にて、本学の名義やロゴタイプ、スクールカラーなど
を定める規程により制定されました。また、バクター形式
の正式なデジタルデータが大学のウェブサイトから配布
されるようになりました。



京都大学

京都大学

KYOTO UNIVERSITY

京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学ホームページ(2008年)



京都大学ホームページ(2004年)

平成22(2010)

3/1 iPS細胞研究所設置。

3/24 京都市勧業館みやこめっせで卒業式、大学院修了式・授与式挙行。

3/29 いずれも学外会場での開催は初。修士と博士合同の修了式・授与式も初。民間等との共同研究推進のため、研究科又は専攻に共同研究講座、附置研究所に共同研究部門が設置可能に。

3/29 フィールド科学教育研究センターに芦生研究林・北海道研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地・徳山試験地・北白川試験地・紀伊大島実験所・舞鶴水産実験所・瀬戸臨海実験所を設置。

4月 IC職員証、IC学生証の運用開始。教職員用全学メール(KUMai)運用開始。

平成23(2011)

3/28 統合薬学フロンティア教育センターを統合薬学教育開発センターへ改組。

先端政策分析研究センター廃止。

環境科学センター、安全科学センター、放射性同位元素総合センター、健康科学センター設置。

国際交流センター設置。

企画室設置。

教育研究推進本部および経営企画本部を廃止。

4/1 事務組織改編。

10月以降、本部棟入館時の職員証提示を義務化。

10/15以降 京大ウィークス開催。全国の隔地施設が公開イベントを開催(以降、毎年度開催)。

12/1 学生用全学メール(KUMai)の運用開始。

平成24(2012)

3/10 研究の魅力を市民に伝え、研究者と市民が語り合う催し「京大アカデミックデイ」開催(以降、定期的に開催)。

山中伸弥iPS細胞研究所所長・教授がノーベル生理学・医学賞受賞。

12/18 教育研究評議会、国際高等教育院(仮称)の設置を了承。

平成25(2013)

4/1 本部構内自動車専用門に入構カーゲート設置。

4月 全学共通科目の履修登録科目数に上限設定(CAP制度導入)(工学部は2014年度から実施)。

8/1 学生総合支援センター設置。

平成26(2014)

2/11 医学部旧解剖学講堂を改修した基礎医学記念講堂が完成し、記念式典開催。基礎医学記念講堂には新たに医学部資料館を併設。

役員会、「京大大学の持続的発展を支える組織改革の骨子」決議。

3/27 教育研究組織から人事・定員管理機能を分離した学域・学系制度導入。

京都大学ASEAN拠点開設(タイ王国・バンコク)に伴い開所式挙行。

6/28 山極壽一理学研究科教授が第26代総長に就任。

10/1 教育研究評議会、「京大大学における成績評価の統一化について」了承。



12/24 2015年度以降、各学部および国際高等教育院入学者の成績評価方法および成績表、成績証明書の記載事項を統一。

平成27(2015)

10/12月 2016年度特色入試の選考を実施(法学部は2016年2月、3月に実施)(以降、毎年特色入試を実施)。

平成28(2016)

3/22 国際交流推進機構廃止。

4月 低温物質科学研究センターを廃止し、物性科学センターを設置。

全学共通科目の科目を見直し科目群を従来の5群から8群へ再編。

英語で実施する科目の増加、ILASセミナーおよび「統合科学」科目新設、選択科目の選択肢が大幅増加。

9/27

再生医科学研究所とウイルス研究所を統合し、ウイルス・再生医科学研究所設置。附属研究施設として感染症モデル研究センターおよび再生実験動物施設設置。再生医科学研究所附属幹細胞医学研究センターおよびナノ再生医工学研究センター、ウイルス研究所附属エイズ研究施設を廃止。

平成23(2011)
東日本大震災発生。
第4期科学技術基本計画
策定。

平成28(2016)
第5期科学技術基本計画
策定。



京都大学ホームページ(2017年)



2017年
京都大学学術研究支援室 提供(大森貴生 撮影)



2015年
元木環 提供



2014年
京都大学学術研究支援室 提供(大森貴生 撮影)



2012年
京都大学学術研究支援室 提供(大森貴生 撮影)



京都大学ホームページ(2010年)

平成29(2017)
国立大学法人法の改正、
指定国立大学法人制度創設。

平成29(2017)

- 1/1 東南アジア研究所と地域研究統合情報センターを統合し、東南アジア地域研究研究所発足。
- 3/28 医学教育・国際化推進センター設置。
データ科学イノベーション教育研究センター設置。
物質・細胞統合システム拠点を設置。
- 6/30 文部科学大臣、京都大学を指定国立大学法人に指定。
- 12/1 京都大学図書館機構、京都大学貴重資料デジタルアーカイブを正式公開。

平成30(2018)

- 3/28 教育研究評議会、「京都大学における軍事研究に関する基本方針」を決議。
京都大学における研究活動は社会の安寧と人類の幸福、平和への貢献を目的とし、それらを脅かすことにつながる軍事研究は実施しないと決定。
- 3/28 医学研究科に京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻設置(ジョイントディグリー)。

工学基盤教育研究センター設置。
放射線生物研究センターおよび生命動態研究センター設置。
原子炉実験所を複合原子力科学研究所に改称。

- 6/1 指定国立大学法人構想に掲げる産官学連携の新しい「京大モデル」構築に向け、大学出資による新たな事業子会社「京大オリジナル株式会社」設立。

役員会、指定国立大学法人構想で掲げた取組の1つであるOn-site Laboratory(京都大学の教育研究組織が海外の大学や研究機関等と共同で設置する現地運営型研究室)の制度化を決議。

- 10/1 本庶佑高等研究院副院長・特別教授がノーベル生理学・医学賞受賞。
- 10/30 ヒト生物学高等研究拠点設置。

平成31(2019)

文化財総合研究センターと文学研究科附属ユーラシア文化研究センターを統合し、新たに文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター設置。
サイエンス連携探索センター設置。

- 4/12 2月に実施した一般入試の一部回答例と出題意図をホームページで初めて公表。

令和元

5/28 教育研究評議会、「学部教育におけるCAP制の導入について」了承。
学部専門科目にCAP制導入。

2020

令和2(2020)

令和2(2020)
COVID-19世界的流行、
日本に影響が及ぶ。

- 1/31 「新型コロナウイルス」に対する本学の方針について(第1版)発表。

- 2/12 創立125周年記念シンボルマーク及びスローガンに関する規程(総長裁定)。

- 10/1 湊長博プロボスト理事・副学長が第27代総長に就任。

- 10/3 10月2日就任式は全学にオンライン配信。
大学院秋季入学式を初めて実施(百周年時計台記念館)。



令和3(2021)

令和3(2021)
第1回大学入学共通テスト
実施。
東京2020オリンピック
競技大会開催。
第6期科学技術基本計画
策定。

- 6/18 創立125周年記念式典・記念フォーラムを挙行(ロームシアター京都)。

- 創立125周年記念附属図書館所蔵貴重資料展示
(6/1〜12/22 附属図書館・オンライン)。

- 創立125周年記念アカデミックマルシェ(6/18 ロームシアター京都)、
アカデミックデイ(創立125周年記念)(6/19 ロームシアター京都)、
創立125周年記念音楽会(6/19 ロームシアター京都)。

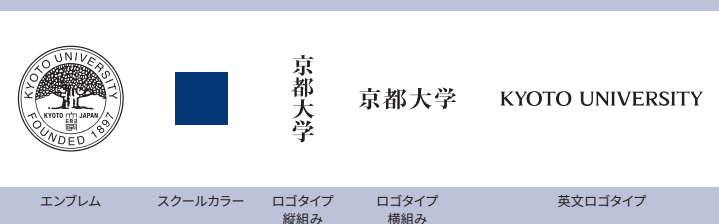
- 大学文書館記念展示「京大の周年記念行事―史料でたどるお祝いの歴史―」
(10/5〜12/4 百周年時計台記念館)。

総合博物館記念展示「創造と越境の125年」(10/5〜12/4 総合博物館)
等を開催。

2022

3代目(現在の)エンブレムの制定(2018年)

2017(平成29)年のWeb戦略室の設置にともない、大学ホームページの整備の一環として、京都大学情報環境機構IT企画室、京都大学総務部広報課、当時京都大学デザイン学ユニット非常勤講師であった京都市立芸術大学 辰巳明久教授を中心に、UI検討チームが組織され、京都大学のUI(VI)の検討が行われました。その結果を反映させたエンブレム、ロゴタイプ、およびスクールカラーの変更と追加作成をもって2018(平成30)年10月1日に規程改正されています。これにより、英文ロゴタイプの新規作成や運用のルールをまとめたガイドブックが発行され、全学で共通して利用可能な名刺などもデザインされました。



2022年
塩瀬隆之 提供